

初心俳句 令和三年春

6組

瀬戸章嗣

私の初心俳句作りは四年目で、現状は一日一句の目標には大分離れて、偶にしか作れていませんが、作る面白さを求めてこれからも、「俳句のある暮らし」を目指そうと思っています。

年初からの五句を、ご笑納ください。

● 八十の髭の盆栽初鏡

● コロナ避け孫子電話で来る三日

● 立春や朝風呂の窓開けてみる

二回目緊急事態宣言の頃、重症患者の増加で病院でのトリアージ（患者の優先順位決定）が話題になり、自分が、万一患者の当事者になる時は、どうするのが幸せかと考えて、昔、小田原藩の侍だった曾祖父ならどうしたかと想像して、一句詠みました。

● コロナにはそろり脇差寄せる春

自分は脇差は受け継いでいないが、いざとなれば、台所の包丁でも十分用は足せると思った次第です。せいぜい、危うきには近寄らないよう心掛け、遣り損ないは避けたいところです。

高齢者のコロナ・ワクチン接種予約が始まり、予約受付センターへ電話したところ、電話が混雑して通じず、一旦開設されていたウェブ予約受付サイトも閉じているのを知って、月初の朝日川柳に、

「年寄りが早い者勝ち無茶言うな」

とあり、その通りだと思い、それなら、「お先にどうぞ で行こう」 と思ったのを思い出しました。

それでも、基礎疾患を抱えている身であれば、人に迷惑をかけないためにも、無理ない予約を取ろうとして、次の日に電話を試してみたところ、用意したワクチン予約完了で、今回受付終了の案内になっていました。 こうなれば、淡々と時を待つばかりと思っただけです。

● 疫病に付き合い千年春生きる

以上